やすうら元気会

安浦で心豊かな食生活を!!

代表の
山根洋子さん

食生活改善推進協議会とは、「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、食を通じた健康づくりを目指している全国組織です。

安浦町では昭和58年に「さわやか食推グループ」として発足し、現在は山根洋子さんを中心とした10余名の推進員が、料理教室を開いて食の改善を進めています。

安浦町での活動は、保健出張所で「さわやかクッキング」、まちづくりセンターで「男の料理教室」の開催、その他として子供教室をしたり、ええとこ祭りにも参加しています。

男性教室の皆さん

女性教室の皆さん

山根さんは、メンバーが少なく活動も大変ですが「要望があればどこでも教室を開きます。」と笑顔で話されました。

退職後に始めた面作り!!

片山幹男さん

赤向坂在住の片山幹男さん（67才）は、平成28年の3月に退職後実家に帰り、農業のかたわら趣味として面作りをしています。きっかけは娘さんが保育所勤務の時、節分の鬼面をつくり持って行かせた事と、65歳の退職祝いに石見の神楽面を貰ったのが興味の始まり。

最初は見よう見まねで石膏で型取り後、紙粘土で面をつくり仕上げに絵の具で色付けしていますが、一作品ごとに型の修正をしながら作り続け、神楽面・能面・翁面とジャンルを広げています。

一番難しいのは表情で、怒り・泣き・笑いを表現する目の入れ方とか!!

今後は、パソコン写真では面の骨格・肉付きがよく解らないので、石見の色々な神楽面を直接見て、参考にしながら作り続けたいと言われます。

まちづくり活動

先進地研修　ふるさと愛で町おこし!!

3月1日から1泊2日で島根県の邑南町「地域おこし協力隊・耕すシェフ」と大田市「石見銀山ガイドの会」を参加者19名で視察しました。

「地域おこし協力隊・耕すシェフ」は地域で食材を自ら育て、加工・調理を行う人を育てる研修制度です。研修の主体となっているレストランは、年間で数千人のお客を呼び込み、研修を修了した人も定住し、お店を開くという成果を上げています。また、邑南町は「食の学校」を作り、地元の食を後世に伝える取り組みもしています。

「石見銀山ガイドの会」は開始当初2人でしたが、現在は地域住民と協力し合い、世界遺産の銀山と情緒ある街並みの魅力を訪れた方に伝えています。２つの町の共通の思いは、子供たちにふるさとの良さを教え、ふるさと愛を育むことでした。

まちづくり情報誌

TANTO（たんと）

No:31

発行　平成29年6月10日

安浦町まちづくり協議会　〒737-2516　呉市安浦町中央４丁目3-2（呉市役所安浦市民センター内）　電話：0823-84-2261（年４回発行）

瑞風外観

あの豪華寝台列車が早朝の安浦を疾走!!

6月17日より、JR西日本が手掛ける「トワイライトエクスプレス 瑞風」の運行が開始されます。

瑞風は定員30名、10両編成の寝台列車で、特徴ある外観と豪華な内装、そして料金はまさしく動く高級ホテルそのものです。

運行は不定期で、コースは下関から大阪・京都間、1泊2日の山陽または山陰の片道コース、もしくは2泊3日の山陰山陽周遊コースがあり、途中何か所か立ち寄り観光もできるそうです。そんな超豪華寝台特急が、朝の瀬戸内海を眺めるため、呉線を走り安浦を通ります。

山陽上り片道コースでここ数か月では6月27日・7月11日・8月29日・9月26日に通過予定。

直近の通過日6月27日は、なんと安浦駅に停車します！早朝ですが迫力ある雄姿を歓迎しましょう。

ザ・スイート　寝室

ザ・スイート　リビング

6月27日㈫
午前6時19分着
（予定）

瑞風が安浦駅に２分間停車!!

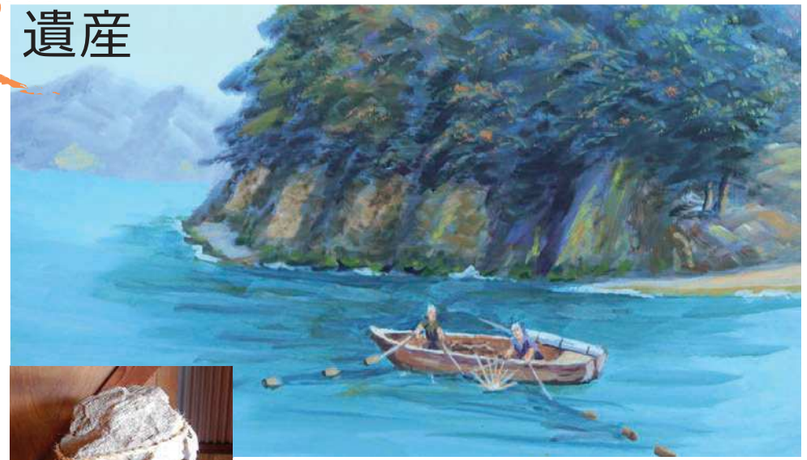
おでかけ情報

6月	おしゃべりサロン	毎週（火・木・金）10：00～15：00	安登駅前駐輪場２階
	ストレッチング教室	6／13（火）10：00～11：30	安浦保健出張所
	舞の海講演会	6／24（土）13：30 開場	安浦まちづくりセンター（入場料　500円）
	内海健康ウォーキング	6/24（土）9：00 集合	安浦保健出張所（参加費　200円）
7月	おしゃべりサロン	毎週（火・木・金）10：00～15：00	安登駅前駐輪場２階
	さわやかクッキング	7／7（金）10：00～12：30	安浦保健出張所（参加費　400円）
	ストレッチング教室	7／11（火）10：00～11：30	安浦保健出張所
8月	おしゃべりサロン	毎週（火・木・金）10：00～15：00	安登駅前駐輪場２階
	さわやかクッキング	8／4（金）10：00～12：30	安浦保健出張所（参加費　400円）
	ストレッチング教室	8／8（火）10：00～11：30	安浦保健出張所
9月	おしゃべりサロン	毎週（火・木・金）10：00～15：00	安登駅前駐輪場２階
	さわやかクッキング	9／8（金）10：00～12：30	安浦保健出張所（参加費　400円）
	ストレッチング教室	9／12（火）10：00～11：30	安浦保健出張所
	敬老会	9／17（日）13：00～	安浦まちづくりセンター

やすうら記憶遺産

山本譲翁の残した450枚の風物画でたどる 安浦・暮らしの記憶

山本譲翁の絵の特長は、安浦の景観をすべて「中景」で描いているところです。カメラレンズで例えるなら、手前は400m、奥は2.5kmほどの範囲に広がる空間をとらえているのです。近すぎない、遠すぎない。中景には、画面の中にたくさんの景観資源を盛り込み、見る人に伝えることができる良さがあります。



「岩清水八幡漁師の網に」※伝承では八幡神社（四国）の八幡神。制作：1978（昭和53）年5月10日／往事の言い伝えなどを参考に制作したもの

←神様がこしかけた石とされる

小用は大昔、安登の村人が開いた枝郷（えだごう）でした。安登と海をつなぐ玄関口だったのです。ある時、小用の漁師が海でご神体を引き上げ、「伊予の難所で船から落ちた八幡神に違いない。」と大騒ぎ。神様は親郷の安登へ運ばれました。

この頃、海上には水軍が姿を現し、内陸と島を治める地頭たちと覇権争いの真っ最中。じつは神様が落っこちたのは瀬戸内最大の村上水軍の制海域。小用浦に近接する中世航路「安芸地乗り」とは別の、四国側の「伊予地乗り」の潮流域です。航路を違え、敵味方入り交じる危険な海の前線で、由緒ある有力者の八幡神、武功の神様を頂いたという手柄なわけです。この神はのちに、内海の亀山八幡宮にまつられます。

安登の人々は、神様がちょこっとこしかけた石、のほうを勘定神社境内に今も大切にまつっています。石をも拝む、原始素朴な人々の気持ちもまたおもしろい。

地域活性化プロジェクトの森吉美樹登さん（左）と女子畑自治会長の松田和幸さん

女子畑の初夏に彩り!!

地域活性化プロジェクトで花の里作り!!

アジサイロード

ヒメシャガ

女子畑の真ん中を南北にゆっくり走ると、道沿いに地元の人たちの手により、整備された「アジサイロード」が見えて来ます。毎年6～7月に見頃を迎え、訪れた人を和ませてくれます。

また地元では、春から夏にかけてツツジ・シャクナゲ・コデマリ（４～５月）・ハナショウブ・ヒメシャガ（5～6月）・ムクゲ（7～8月）等、次々と季節を潤す花に出会えます。

皆さんもカメラを持って、初夏の里山を訪ねて見てはいかがですか。女子畑自治会では「地域活性化プロジェクト」を立上げ、花の里作りに取組んでいます。

湯桶の口島 まるで、モン・サン・ミシェル!!

七浦海水浴場の東にある中小島海浜に浮かぶ湯桶の口島は、大潮の干潮時には島が陸続きになります。島に天然の道が現れる姿はまるで、フランスの世界遺産モン・サン・ミシェル。

壮大な修道院の代わりに、輝く松の緑。祈りの人々の代わりに、岩カキやツブカイを採る人、釣り糸を垂れる人が集います。島に続く道には、アオサやヒジキも顔を出しています。

とびしま海道の島々を背景に浮かぶ小島は、安浦の隠れたビューポイントです。

満ち潮

引き潮

やすうら老舗シリーズ

渡川商店

安浦町三津口１丁目16-11　TEL84－2403

三津口にある渡川商店は創業80年、現在は3代目の宏治・華子さん兄妹が経営しています。地域のミニスーパーとして食品だけでなく、ロウソク・靴下などの日用品、介護用品などもそろえています。

お店の自慢はなんと、活魚水槽!!「この、魚を、刺身にしてね。」と注文できます。

ほかのお魚も新鮮!!潮吹きしているアサリや牡蠣も、量り売りＯＫ。お惣菜の種類も豊富、量もパックの大小、ばら売りとあり、いまでは春香園のデイサービスで利用者が買えるよう出前もしています。仕出しやお弁当、時には「この豚肉、豚カツに」「コロッケ○個」という注文も受けます。地域の祭りには、保命酒やいが餅など取り揃え、まさにお客様の要望に応える心意気！

お店のモットーは「地域に根差したお店」。一人暮らしのお宅に配達サービスもしています。酒・米・弁当などお店にあるものは全部配達できます。ライフスタイル・地域の暮らしに寄り添ったお店です。

営業時間：月～土　9：00～18：00
祝　日　9：00～13：00
日曜日　休

写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。懐かしい風景をご覧ください。

下垣内地区

昭和40年代の写真と思われる。
当時の平均的な農家の家屋が映っている。

家々はカラフルになり農業も機械化が進んだが、山並みと景色は昔と変わらず、古代の水洞式棚田（耕地面積を広くする為、田の地下に水路を作った）が残っており、今も利用されている。

中央７～８丁目，実成塩田

昭和18年当時の写真　木村仁平氏が作った塩田で、戦時中も昔ながらの塩作りが行われていた。

塩田は姿を消し、畑と大型のソーラー発電設備が設置された。三津口湾の向側にある飯野山も頂上が削り取られている。